

人文学部 前期日程 令和2年度入学試験「総合問題」

解答および出題意図

I

問1. (解答例)

身体的な旅への欲望を産み出すことと、目的地を非日常的な心象地理によって舞台化すること。(43字)

場所のイメージを作り出すことと、そのイメージを特定の方法で体験する主体を作ること。(41字)

問2. (解答例)

舞台化された場所は人の目をわくわくさせて誘惑する。また本物よりもさらに劇場的に、うまく調光して、色彩もより鮮明に写すことで人間の視覚を凌駕する商業観光写真によって舞台化された場所は、人間の目によって直接見られる時よりも美的な魅力を持つものとして複製される。(128字)

問3. (解答例)

ここでいわれる「ガーデニング」とは写真から乗り物や自動車など時代を示すもの、目障りなもの、不快なもの一切を避けることを意味する。写真家がこのような「ガーデニング」を行うのは、観光客がそれらを場違いで場所の神話を弱めるものとみなすことを懸念するためである。(127字)

問4. (解答例)

ここでのrightは一般的に妥当するものではなく、「ガーデニング」により場所を舞台化することを目的とするプロの写真家にとってはrightであるということを示唆するため。(76字)

II

問1. (解答例)

珍しい眺め(5字)

問2. (解答例)

素朴で根元的で、感動的なもの、存在の生命に対する把握の緊張感を、前近代的として否定し、題材の特異性、構図や色彩や技法の新しさにとらわれていたから。また、家計のためにも、あるいは友人に追いつくためにも、展覧会で好成績を挙げたという焦りがあったから。(124字)

問3. (解答例)

日常から離れた八ヶ岳での経験は、密接に自然の心と溶け合う、深い自然観察の機会を著者にもたらした。一方、生きる権利を奪われた極限的な状況下で生じた熊本での経験は、風景の輝きや生命を意識する心の純粹さをもたらした。前者が外界・対象への意識を研ぎ澄ましたとすれば、後者は深い自己省察の機会を著者に与えた。この主客への深い意識の交差と均衡が、著者の風景画を、流行に左右されぬ普遍的な表現へと高めた。(195字)

Ⅳ

問1. (解答例)

$$\text{平均} = (2+3+2+(-1)+2+2+3+2+2+3)/10 = 20/10 = 2$$

分散 =

$$\begin{aligned} & ((2-2)^2 + (3-2)^2 + (2-2)^2 + (-1-2)^2 + (2-2)^2 + (2-2)^2 + (3-2)^2 + (2-2)^2 + (2-2)^2 + (3-2)^2) / 10 \\ & = 12/10 = 1.2 \end{aligned}$$

問2. (解答例)

同期条件で、参加者はビデオカメラのある場所に自分がいるという体外離脱を経験したため、ハンマーでビデオカメラのレンズの下方を叩く動作を見て自分が叩かれると恐怖を感じて、発汗が生じた。一方、非同期条件では、体外離脱の感覚は生じなかったため、ハンマーの動きにも恐怖を感じることはなく、発汗は生じなかった。そのため、非同期条件よりも同期条件で皮膚伝導反応の値は大きかった。(182字)

問3. (解答例)

同期条件では、棒の視覚刺激と触覚刺激が同期していることを参加者は知っている。そのため、参加者が体外離脱を体験しているか否かに関わらず、ハンマー(視覚刺激)が提示されたときに打撃(触覚刺激)を受けると予想したことにより、恐怖感が生じ、皮膚伝導反応が大きかった可能性もあるため。(137字)

Ⅳ（出題意図）

設問に対して、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ各問の内容を踏まえつつ、自らの知見も加えたうえで、まとまった文章として解答する力を測る。その際、以下の3点から評定する。

1. 既出の各設問の内容に対する理解力
2. 知識や教養に培われた批判的思考力
3. 意図するところを適切に伝えられる構想・表現力